

平成26年度 第1回青森市民図書館協議会 会議概要

- 1 日 時 平成26年7月2日(水) 午後3時～午後4時
- 2 場 所 青森市民図書館8階会議室2
- 3 出席委員 丸山厚子、蝦名理佳、奥崎信人、倉内千恵子、大坂美保、佐藤英子、高橋葉子、蒔苗礼子、秋谷進、清藤正道
- 4 事務局出席職員 館長 渡邊薫、主幹 竹谷圭司、主幹 村上泰子、主幹 木下優、主任司書 菅谷悦一、主事 村上純子、主事 田崎鈴
- 5 次第
 - 第1回青森市民図書館協議会
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 協議事項
 - ・図書館の貸出冊数について
 - ・蔵書点検の日程について
 - ・青森市子ども読書活動推進計画第二次計画の進捗状況について
 - (4) 報告事項
 - ・雑誌スポンサー制度について
 - ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて
 - (5) その他
 - (6) 閉会

6 会議の概要(発言の要旨)

協議事項 ・図書館の貸出冊数について資料「3協議事項(1)図書館の貸出冊数について」により事務局より説明

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

(委員)

青森市より貸出冊数が多い都市が34ということだが、平均は何冊か。

(事務局)

42市中22市が10冊、平均は12.3冊となっている。

意見

- ・限られた冊数のため、公平なスタンスを考えると兼ね合いを取る必要があるとは思いますが、貸出冊数の増加を希望する声があるのであれば、貸出冊数の増加をするべき。
- ・現在、家族のカードを使用してまでも5冊以上の貸出をする人もいるため、気持ちを汲むためにも貸出冊数の増加は賛成だ。

協議事項 ・ 蔵書点検の日程について資料「3 協議事項(2) 蔵書点検の日程について」により事務局より説明

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

(委員)

最も利用者が多い月はいつか。

(事務局)

一番入館者が多いのは8月。これは開館時間を通常より1時間早めている関係もあり、通常よりも入館者が多くなっている。

一番入館者が少ないのは2月。これは1ヶ月のうち2週間の閉館期間があるため。次に少ないのが10月、これはレジャーシーズンで外出する機会が増えるためと見込んでおり、ここ3年間は10月が少ない現状である。

意見

- ・6月上旬は青森市読書団体連絡会で8月に行う風の運んだおはなし会の地域編での資料選定の時期となるため、考慮してほしい。
- ・センター試験が1月中旬、国立2次試験が2月末のため、2月以外が図書館で勉強する学生のためになると思われる。図書館は勉強する場という使命もあるため、2月以外を蔵書点検期間としてほしい。
- ・小学校は校外学習などで図書館の施設見学を6月頃に行う場合もあるため、それも考慮してほしい。
- ・実際には高校生からも2月に閉館期間があるのは困るという声がある。センター試験が1月中旬、国立2次試験が2月3週目の土日に試験がある関係と、そのセンター試験の自己採点の結果をうけて、勉強の時期である2月の1、2週が休館期間で高校生側は困っているという現状。元はセンター試験に被らないように考慮され、蔵書点検期間を設定している経過もあるため、今までは何も言及しなかったが、今回このことも考慮の上、蔵書点検期間が変わると高校生も喜ぶと思われる。3年生だけではなく、1・2年生の期末試験が2月下旬から3月の第1週あたりに行なわれ、高校の卒業式が3月はじめになり、その前後で期末考査を行う学校がある。6月上旬は青森県高校総体の時期で、高校として影響はないと思われる。

協議事項 ・ 青森市子ども読書活動推進計画第二次計画の進捗状況について資料「3 協議事項(3) 青森市子ども読書活動推進計画第二次計画の進捗状況について」により事務局より説明

意見

- ・平成17年にボランティアが立ち上がった当時は、ボランティアが自分で声がけ等をやっていたが、現在では図書館の方から声がけや、講習をするなどの活動があり、ボランティアの数が増えていったと思われる。今後も続けてほしい。

報告 ・ 雑誌スポンサー制度について資料「4 報告事項（1）雑誌スポンサー制度について」により事務局より説明

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

（委員）

スポンサー料はどのくらいか。

（事務局）

雑誌の1年間の購入代金となるため、選ぶ雑誌によって価格は違う。週刊誌・月刊誌・季刊紙それぞれの雑誌をスポンサーが選択し、その雑誌の一年間の値段をスポンサーが本屋に支払う流れ。

（委員）

カバー裏の大きな広告は毎週変わるものなのか。

（事務局）

年4回まで変更可能。

意見

・現在1社の申込みありということだが、もっとスポンサーを増やしてほしい。

報告 ・ 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて資料「4 報告事項（2）国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて」により事務局より説明

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

（委員）

説明をする担当者はいるのか。

（事務局）

はい。職員によるログイン作業後、利用者への使い方の説明をし、利用してもらう流れとなっている。

（委員）

広報あおもり以外にも周知する方法は検討しているのか。

（事務局）

図書館ホームページや取材依頼等にて広く告知する。

（委員）

広報あおもりへの掲載はいつになるのか。

(事務局)

掲載がサービス前に間に合わず8月1日号となるが、既にホームページや取材方では準備を進め、館内での表示などで告知をしている。

その他として、「あおもり歴史トリビアを読む会」の実施について事務局より説明(チラシ配布)

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

(委員)

子ども向けのものなのか。

(事務局)

子ども向けというわけではないが、誰にでも分かりやすいよう1回読切り千文字程度の文章でメールマガジンとして配信している。これに写真をつけた冊子を、図書館や各市民センターへ置いているが、さらに、「読む会」にて詳しく解説していくというものとなる。

(委員)

歴史トリビアについて説明してほしい。

(事務局)

市史編さん室で毎週1回、登録している方にメールマガジンで身近な青森市の歴史についてトピックスを配信しており、この中から、多くの方に知っていただきたい話題などをピックアップし、月1回、第3水曜日の夜に市民図書館8階会議室2にて「読む会」(解説する会)を開くというもの。市民図書館8階の奥の方に郷土資料のコーナーがあり、「読む会」とおりませ、史編さん室の専門職の方から郷土の話の聞いたり資料に触れていただくというもの。

意見

・地域の記憶を保存して継承する使命も図書館にはある。是非この活動を進めてもらいたい。

会議終了